

## 特集「並列処理」の編集にあたって

天野 英 晴†

「並列処理」特集は、前年度開催された並列処理シンポジウムでの研究発表をまとめた論文に、広く一般公募した並列処理に関する論文を加えることで、基礎理論、アーキテクチャ、ソフトウェア、応用等広い範囲に渡る並列処理の動向を収録することを目的として編集を行ってきた。

昨年も並列処理シンポジウム JSPP2001 ( Joint Symposium on Parallel Processing 2001 ) は、島崎眞昭委員長 ( 京都大学 ) のもと、6月5日から3日間にわたって、京都リサーチパークで開催された。主催は、本学会の計算機アーキテクチャ研究会、システムソフトウェアとオペレーティングシステム研究会、アルゴリズム研究会、プログラミング研究会、ハイパフォーマンスコンピューティング研究会と、電子情報通信学会のコンピュータシステム研究専門委員会、データ工学研究専門委員会、フォールトトレラントシステム研究専門委員会であり、日本ソフトウェア科学会のソフトウェアシステム研究会、人工知能学会、日本応用数理学会、超並列計算研究会の協賛を受けた。2001年度は、例年より一日多い日程を組み、招待講演およびチュートリアルを増やし、講演者を囲むラウンドテーブルなどの新しい企画を行った。一般論文の投稿件数および採録数は例年並みであったが、例年をはるかに上回る数のポスター投稿があり、地方開催としては例外的に多数の参加者を得て盛況のうちに終わった。

今年の「並列処理」特集号も、例年どおり、この JSPP2001での発表論文をはじめとして広く一般に募集を行い、35件の投稿をいただいた。編集作業の短縮のため、会議室で行う一般的な編集委員会に加えて、一昨年度より導入されたオンライン編集委員会を併用した。結果として、18件の論文が採録され、予定どおり4月号に掲載することができた。運営にあたられた幹事の皆様の努力に感謝するとともに、迅速に査読いただいた査読者の皆様、短期間で最終原稿を用意していただいた投稿者の皆様にも心から感謝したい。

さて、1989年の12月に第一回が掲載されて以来、毎年情報処理学会論文誌を賑わし、12年間にわたって、幾多の優れた論文を収録して来た「並列処理」特集号も、次回より研究会論文誌 ( ハイパフォーマンスコンピューティングシステム : HPS ) に移管する形で発展的解消することとなった。これは、並列処理の研究がより実際的になったことに対応し、研究成果をいち早く論文誌の形で発表することが目的である。

本来「並列処理」特集は、JSPPで発表して議論を行った結果を反映し、発展させた研究を論文誌の形でまとめる意義があった。しかし、発表者にとっては、JSPPへの投稿から論文誌の発行までには約一年半の時間を要することになり、最近のこの分野の展開の速さから考えると、時機を逸してしまう可能性がある。これに対して、次回から企画される研究会論文誌の特集号は、JSPPの投稿と連係して論文を募集し、JSPPと研究会論文誌特集号への同時投稿、研究会論文誌特集号への単独投稿、JSPPへの単独投稿をいずれも可能としている。このため、完成度の高い研究は、同時投稿により短時間で論文誌への掲載が可能となる。一方で、JSPPへの単独投稿を希望して発表を行い、そこでの議論を踏まえて、次の年に特集号への単独投稿を行うことにより、従来どおりのペースで研究を進めることもできる。研究会論文誌への移管は、このような弾力的な掲載を可能とすることで、投稿者に対して大きなメリットがあり、従来に増して並列処理研究の発展に寄与するであろう。

今後、あまり「ハイパフォーマンス」を指向しない並列処理研究の成果を収録するために、別の切り口で並列処理に関連する特集号を企画することも考えられるが、情報処理学会論文誌における「並列処理」特集号は、本号をもってひとまずその幕を閉じることになる。歴代の特集号を支えた編集者、著者、読者の皆様に心から感謝するとともに、並列処理研究のさらなる発展を祈って、最後の特集号の序文の結びとしたい。

本特集号は、ゲストエディタ制度により、以下の特集号編集委員により編集を行った。

### 「並列処理」特集編集委員会

- 編集長  
天野英晴
- 幹事  
中村 宏、森眞一郎、横田隆史
- 編集委員  
安里 彰、石川 裕、市川周一、小川 聰、小池汎平、  
坂根広史、佐藤寿倫、佐藤周行、中野美由紀、増澤利光、  
横川三津夫、脇田 建